

# 卵子バンクや子宮移植…「性」巡る課題に光

## 「生殖と性」いまを問う

卵子バンクや子宮移植、性教育など、性を巡る様々な課題を考える日本性科学会の学術集会が、11、12日の2日間、岡山市で開催される。会長を務める中塚幹也・岡山大学教授に、今回のテーマや思いを聞いた。

性科学とは、あまり聞き慣れない言葉です。性には、身体的、精神的、社会的な側面があり、人の生き方そのものにも深く関わっています。医学、

性科学などさまざまな学問分野の視点で、性に関する課題を横断的に考える。これが性科学だと、私は思っています。

——今回のメインテーマ



なかつか・みきや 1961年生まれ。倉敷市出身。岡山大学医学部卒。産婦人科医として生殖医療に携わる。GID学会理事長。岡山大学大学院保健学研究科教授で、今年1日に相談業務が始まった「おかやま妊娠・出産サポートセンター」のセンター長も務める。

### 日本性科学会長の中塚・岡大教授 「社会に発信」

性や生殖がどうあるべきか、社会的な議論が進むなか、私たちが科学の視点から研究を進め、社会に発信していく必要があると思っ

ています。

——ワークショップでは性同一性障害(GID)の子どもについて取り上げます。

GIDとは、戸籍の性と、自分が感じている性が一致しない状態で、岡山大は日本最大の治療拠点です。GIDの子どもは生きづらさのため、不登校やうつなどにつながるやすい。私たちは多くの当事者に接してきて、幼い頃から「性のあり方は多様である」とことを知る重要性を痛感しています。

ワークショップでは、GIDの子どもたちが直面している困難について、当事者や教員への調査結果を基に話し合います。

——一般公開のイベントで、自らGIDを公表している歌手を招きましたね。すばらしい歌を聞いたいただけに楽しんでもらえたら、そして、生きていく勇氣や元気を分かち合えたらと思います。

(聞き手・中村通子)

「生殖と性」ですね。性科学には「生きる」とは何か」という哲学的な側面も含まれますが、今回は主に現実の問題に焦点を絞りました。私が産婦人科医ということもありまして、今、性と生殖を巡る問題が相次いでいるからです。

例えば、7月に最高裁が、血縁関係が否定された場合でも父子関係を取り消すことはできないという判決を下しました。8月には代理出産が盛んなタイで、ダウン症の赤ちゃんの引き取り拒否や、日本人男性が自身の精子と第三者の卵子を受精させ、代理出産で持ったとされる大勢の乳幼児が保護されたことが大きく報道されました。

### 11・12日 映画上映・コンサート 公開企画も

日本性科学会の一般公開企画は二つ。どちらも11日に北区鹿田町2丁目の岡山大学鹿田キャンパスで。

①映画「うまれる」上映会 午前10時～11時45分、医学部臨床第一講義室。両親の不仲や虐待の経験から親になることに戸惑う夫婦や、出産予定日に我が子を失った夫婦などの姿を通じて「生きる」ことを考えるドキュメンタリー。子ども同伴の人には別室上映も。

②音楽とトークの夕べ 午後5時半、Jホール。GIDであることを公表している歌手中村中(あたる)さん＝写真＝のコンサート。①②とも無料。先着順。

シンポジウムやワークショップなどの学術集会は12日午前9時、Jホールで。性教育資料なども多数展示。学術集会の参加費は一般5千円、学生1千円。問い合わせは中塚研究室(086・235・6538)。

